

2 経皮感作の基礎

Mechanism of percutaneous sensitization

中島沙恵子

NAKAJIMA Saeko

京都大学大学院医学系研究科皮膚科学助教

Summary

近年、アレルギーマーチの発症起点として、アトピー性皮膚炎に代表されるバリア障害のある皮膚を介した環境中のアレルゲンによる経皮感作が重要であるとの報告が相次いでいる。経皮感作の成立には、経皮的な抗原の侵入だけでなく、抗原提示細胞による外来抗原のナイーブ T 細胞への提示、その後の T 細胞分化・増殖という一連の免疫応答が重要である。皮膚にはランゲルハンス細胞と真皮樹状細胞の 2 種類の抗原提示細胞が存在するが、このうち表皮に常駐しているランゲルハンス細胞は、皮膚タイトジャンクションバリア外に存在する分子量の大きな蛋白抗原を捕捉し、TSLP 受容体を介して Th2 型皮膚免疫応答を誘導することが明らかになった。経皮感作の詳細なメカニズムの解明は、アレルギーマーチの発症の予防・治療に非常に重要である。

胸腺間質性リンパ球新生因子(TSLP)

主に上皮系細胞に発現するインターロイキン(IL)-7様サイトカイン。テープストリッピングなどの機械的刺激は、上皮細胞からのTSLP産生を誘導する。アトピー性皮膚炎の表皮で高発現している。

経皮感作

ある特定の異物や病原体が皮膚を介して生体内に入ることにより、皮膚に存在するさまざまな免疫担当細胞によって引き起こされる、これらの抗原に対する獲得免疫応答のこと。

KEY WORDS

胸腺間質性リンパ球新生因子(TSLP)／経皮感作／ランゲルハンス細胞／蛋白抗原／アトピー性皮膚炎